

会員配布用

2016年度活動報告

(2016年8月～2017年7月)



NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

資料 大会2日目プログラムより

第2日目 午前 大研修室(第3)

シンポジウム④

九州各地の取り組みの連携—九州在宅医療推進フォーラムを通して

【座長】

- 太田 秀樹 (医療法人アスムス理事長) (全国在宅療養支援診療所連絡会 事務局長)
- 中野 一司 (ナカノ在宅医療クリニック) (全国在宅療養支援診療所連絡会 ICT 局長)

【シンポジスト】

- 二ノ坂保喜 (いのさかクリニック 福岡 医師)
- 白髭 豊 (白髭内科医院 長崎 医師)
- 満岡 聡 (満岡内科消化器科医院 佐賀 医師)
- 田島 和周 (田島医院 熊本 医師)
- 五反田満幸 (五反田内科クリニック 鹿児島 医師)
- 山岡 憲夫 (やまおか在宅クリニック 大分 医師)
- 外山 博一 (外山内科神経内科医院 宮崎 医師)
- 泰川 恵吾 (ドクターゴン診療所 沖縄 医師)

地域包括ケアシステム構築が基礎自治体の役割として委ねられ、在宅医療への期待がますます高まっている。このような社会的背景の中で、在宅医療助成勇美記念財団の支援協力による、在宅医療の普及推進を目指した在宅医療推進フォーラムが全国各地で開催され、在宅医療の普及に大きな力となっている。

2006年4月の診療報酬改定で、あくまでも診療報酬上の位置として、在宅医療関連の保険点数が有利に評価される在宅療養支援診療所の制度が発足した。それを受けて2008年3月に全国在宅療養支援診療所連絡会(在支援)が組織され、翌2010年9月に在支援九州ブロック会(二ノ坂保喜会長)が結成された。

九州地域でも、勇美記念財団の助成を受け、在支援九州ブロック会、九州訪問看護ステーション連絡協議会、全国薬剤師在宅療養支援連絡会九州ブロック会、各県地域医師会、薬剤師会、歯科医師会、看護協会等の後援をいただくなどして、2010年9月から、毎年一回、各県持ち回り方式で、九州在宅医療推進フォーラムを開催している。

第1回 九州在宅医療推進フォーラムは、2010年10月31日に、二ノ坂会長が大会長のもと福岡市で開催された。本九州在宅医療推進フォーラムを通じ、第2回佐賀大会(満岡聡大会長)では「在宅ネット・さが」、第3回熊本大会(田島和周大会長)では「熊本在宅ドクターネット」が結成され、各県各地域での地域包括ケアシステムの構築に寄与している。

また、第4回大会は、宮崎キョウケアネットワークにて外山博一大会長のもと宮崎市で開催された。第5回大会は、中野が大会長で鹿児島市において開催したが、鹿児島市では今年4月に鹿児島市医師会在宅医会(五反田満幸会長)が発足し、本シンポジウムでは五反田会長に鹿児島市医師会在宅医会の活動についてのご講演をいただく。

昨年10月25日、26日には、大分市で第6回九州在宅医療推進フォーラム(山岡憲夫大会長)が開催され1000名を越す参加者を得た。また、今年10月29日、30日には、沖縄県宮古島で第7回九州在宅医療推進フォーラム(泰川恵吾大会長)が開催される予定である。また、来年は、白髭豊大会長のもと長崎市で第8回大会が開催される予定である。

本シンポジウムでは、九州在宅医療推進フォーラムを通じての九州各地での在宅医療推進の活動につき、報告、討議予定である。また、このようなフォーラムの開催においては、さまざまな場面でICT活用が有益で、さらにメーリングリストによる意見交換は多職種協働への有効なツールとなっている。教育、啓発、学術活動におけるICT利用の優位性や今後のフォーラムの方向性についても、言及したいと考えている。

なお、全国各地で開催されている在宅医療推進フォーラムの円滑な運営に勇美記念財団の功績は多大であり、心から感謝の意を表する次第である。

大会2日目プログラム